

実践 和泊町立和泊中学校

1 はじめに

本校は生徒数186人（8学級）で、生徒は素直で明るく、人なつこい面を持ち、学校内だけでなく、地域においても各種スポーツ活動や文化活動、福祉関係のボランティア活動等に積極的に参加することを通して、地域との関わりを大切にしている。

本校の読書活動では「読書の楽しさを味わわせることで、豊かな人間性や考える力を養う」「よりよい読書態度の育成のため、読書の量と質を高めさせると共に、学力向上のための資料提供や情報発信に努める」の二つの目標を基に、生徒が良書に触れる機会を増やすことを中心にした活動に取り組んでいる。

2 活動の実際

(1) 朝読書時間の設定

中学生の時期は最も読書離れが進みやすい時期であり、本校の生徒も例外ではないと思われる。一方で、本は心を育てるといわれる。言語能力の向上にも寄与し、想像力を豊かにさせる可能性も高い。良書に触れることは「生きる力」を育てることにもつながると考えられる。そこで、朝の15分間の読書活動を実施することで、良書に触れる機会をつくり、生徒に少しでも読書の習慣を身に付けさせることを目的に、火曜日以外は毎日、朝読書を行っている。



【昼休みの図書室】

(2) 読書指導の日

毎週木曜日に全職員と全生徒が読書に取り組む朝読書指導の日を設定し、学校全体で読書に取り組む時間を作っている。

(3) 読書の日や多読賞の設定

毎月、読書の日を設定し、生徒会の文化部を中心に新刊書の紹介等を行うようにしている。また、学年末に各学年の多読者2人の表彰と年間50冊以上の生徒全員に和紙で作った手作りのしおりをプレゼントしている。

(4) 読書意欲を高めるための設営の工夫

図書室は、海に面しており、開放的なスペースに、5月には鯉のぼり、10月にはハロウィーン等四季それぞれの歳時記の演出をしている。また、おすすめコーナー、新刊本コーナー、畳を敷いたコーナー等を準備し、昼休み等はクラシックのBGMをかけ、リラックスした雰囲気の中で読書活動ができるように工夫している。



【図書室の設営】

(5) 職員による読み聞かせ

月に1回程度、職員が各自で本を選び、それぞれ学級に一人ずつ入って読み聞かせを行っている。

(6) 生徒会文化部の活動

生徒会活動の一環として生徒会文化部員が分担して毎日の貸出業務と書架の整理や読書の日の企画・運営や推薦図書紹介、リサイクルブック回収、ポスター作成等に取り組んでいる。



【職員による読み聞かせ】

(7) 年間読書目標の設定

目標を持って意欲的に読書活動ができるように、毎年、個人の年間読書目標を設定させている。特に、毎月読書量調査を行い、いつでも自分の読書量を確認できるようにしている。

(8) 学年文庫スペースの活用

各学年の共同フロアスペースにいつでも本が手に取れるように書架棚を設置し、1か月をめぐりに本の入れ替えも行っている。また、国語の学習と関連した本を展示することで学習内容に興味を持ち発展的な学習ができるように工夫している。



【学年文庫スペース】

(9) イベント的に行っている取組

年度初めには、ルールを守って意欲的に読書活動ができるように、学級単位で図書室利用等についてのオリエンテーションを行っている。また、多くの良書に興味を持たせるために、年に3回全校朝会等で読書指導係によるブックトークを実施している。

3 活動の成果と課題

(1) 成果

- ・ 年間の図書貸出冊数が平成24年度は、生徒一人あたり69.5冊、平成25年度が55.2冊、平成26年度が76.4冊と高水準を維持している。
- ・ 各学年の学年文庫スペースに、現在行っている国語学習と関連した本を展示することで興味を持って国語学習や読書に取り組む生徒が増えた。
- ・ ガラス張りで見える図書室に、BGMや畳を敷いた家庭的な雰囲気スペースなど、リラックスして読書ができる空間を工夫することで、利用者が増加した。

(2) 課題

- ・ PTA活動の重点目標に読書の推進を設定しているが、家庭との連携が不十分である。家庭での読書活動や、図書館利用について保護者への啓発に努めていく必要がある。
- ・ 日頃の授業と関連した読書活動を多くの教科で意図的に計画することで読書活動を通して学習意欲に繋げていく工夫が必要である。